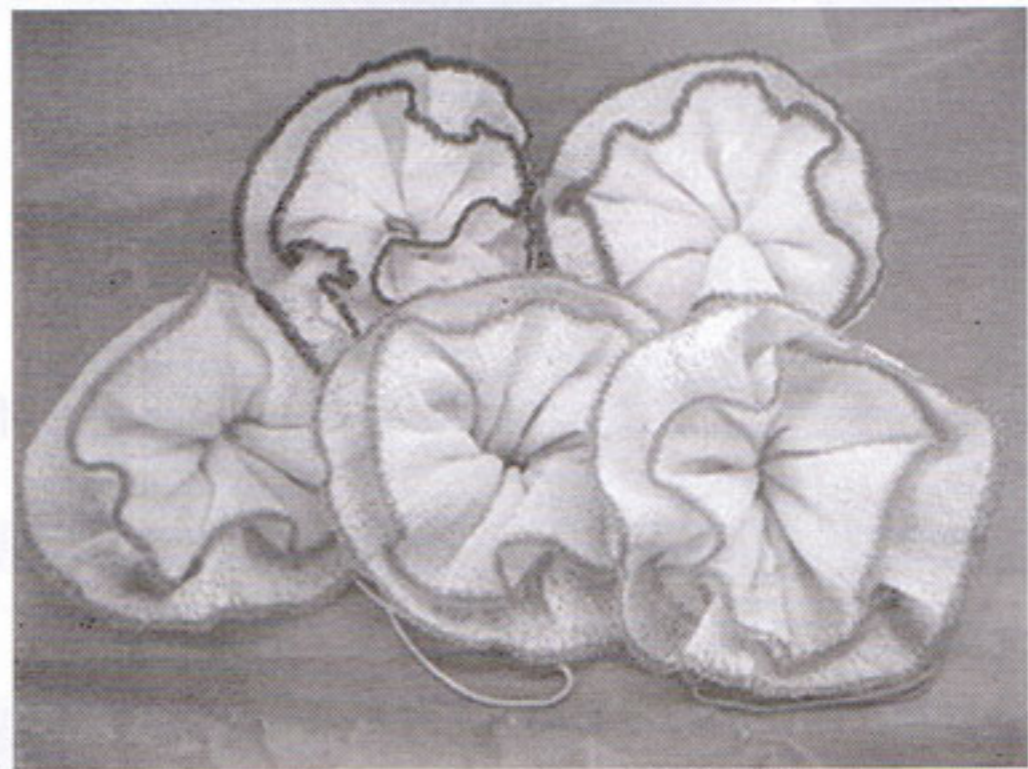


【オリジナル染色・カラー繭】

一昨年9月に、繭から染色し、繰糸工程により色繭を合わせて多彩な色を出す技術の特許申請した。例えば色の3原色を生かし、赤と青に染色された繭から紫色を、黄と青の繭から緑色を、赤と黄から合わせて橙色という有色生糸が繰糸できる。この技術により、多数の色調を表現することができ、通常の『総染め』では出せない虹色に乱反射する美しい生糸を、伝統技術である『上州座繰り』の手法で生産することが可能になった。



太繊度低張力糸の商品化 プーケットタオル

この有色生糸は、生糸本来のもつクリンプ性や、『ちぢら』を残し、独特のシャリ感と、シボを有した空気層を含む高高糸となる。この特殊染色技術は、セリシン層を通過し、フィブロイン層のたんぱく質まで染色することができるため、湿摩擦堅ろう度試験も、通常に絹染色に比べ、高い評価が得られた。

特許染色技術の応用として、トルマリン、チタン、アルミナ等の鉱物・金属をフィブロイン層のたんぱく質に送り込むことも可能であり、このことにより高機能性生糸を生成することができ、介護、医療の分野においても新たな絹の可能性が期待できる。

【太繊度低張力糸（古代絹）の商品化について】

昨年度より、太繊度低張力糸（古代絹）の商品化を行った。この糸の特徴である1000デニールから1200デニールの太繊度と、セリシンを最大限残すことをコンセプトに、商品開発を行った。糸の硬さのため、編み立ては容易ではないが、繰糸の仕方や、前処理を念入りに行うことにより可能になる。新商品は、ボディケアの分野で、好評を得ており、シリーズ化をしてゆくことにより、多くの方々が、絹をもっと身近に感じ、親しんでいただけたらと願う。

この太繊度低張力糸（古代絹）には、まだまだ魅力が多く存在し、この空気感やソフト感を生かして、冬の暖かい衣料分野にも商品化の可能性があると思われる。

【おわりに】

絹産業は、まさに出逢いと感動の産業であると思う。今後も、養蚕農家と創り手のおもい、消費者の思い、郷土を愛する想いが一つになればという願いを込めて物づくりに精進して行きたい。川上の養蚕農家から川下の消費者に至るまで、手を携えて夢をもって商品開発に取り組めるような環境づくりができ、『日本の絹文化』がますます活性化されますことを心より願っております。

イベント情報

伝統工芸から創作デザインまで染・織で綾なす

第4回 日本の絹展 特別企画 酒井登巳子花まゆ展

◎日時：7月25日(水)～30日(月) ※最終日は午後6時閉会。

◎場所：日本橋高島屋8階ホール

◎後援：独立行政法人中小企業基盤整備機構、独立行政法人農畜産業振興機構、
社団法人日本絹人織織物工業会、財団法人伝統的工芸品産業振興協会

◎主催：社団法人日本絹業協会

◎出品者及び作品：峯史仁(染織・組紐)、森博(染織・飾り物)、多摩シルクライフ21研究会(真綿づくり・糸づくり)、伊豆蔵明彦・サンムーン(染色洋服)、ミラノリブ(シルクニット)、岡嶋寿子(時代布)、横浜スカーフ(スカーフ)、キクチエミ(絵染め)、五嶋喜美子(組紐シルクジュエリー)、碓氷製糸(健康衣料)、織道楽・塩野屋(健康・浄肌衣)、アトリエ・Kinami(扇子・日傘)、中島洋一(古典織物)、ジェイ・ワークス(型染・手刺繍)、佐藤章(京友禅・バッグ・洋服)、岡重(更紗ストール・バッグ) 染織 iwasaki(染織着尺・洋装) いむら意匠(京友禅手描傘)、ネオシルク(シルクリボン)、コスメファーム(シルク化粧品) 石崎幸子(加賀の指ぬき・姫手まり) 松原智代、稲邊智津子(創作人形)、高島屋オリジナル「誰が袖好み」御幸蚕「小石丸」、本場筑前博多織、本場奄美大島紬織元協同組合、西陣本つづれ勝山。